

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	豊橋市立鷹丘小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	互いを認め合い，学びを深めていく子の育成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 実施計画に至るまでの経緯

豊橋市教育委員会から学習指導の研究内容で，令和4年度から令和6年度まで3年間の研究委嘱を受け，研究活動を進めている。

2 活動・活動の目的（ねらい）

学びの土台作りをしながら，問題解決的な学習を進め，「互いに認め合い，学びを深めていく子」の育成を目的として研究を進めている。研究を進めるにあたり，①学びの土台づくり②問題解決的な学習となる単元づくり③言語活動を重視した授業づくりの3つの手だてを講じた。豊橋市の教職員他を対象にして，研究の成果を令和6年10月16日に発表する予定である。

3 活動内容

（1）実践①（学びの土台づくり）

毎週木曜日の朝の帯活動の時間に「お話タイム」を全校で行った。「お話タイム」は言語能力の基礎づくりや温かな学級づくりを目的としている。お話タイムの中で，「まず…。次に…」「〇〇さんと考えが似ている…」などのわかりやすく自分の考えを伝える言い方をしたとき，教師がその言葉の価値づけをすることで，その後のお話タイムや授業内での意見発表で使おうとする子どもたちが増えてきた。また，友達の新しい考えと出会ったとき，「なるほど」「そういうことね」など，認める言葉も多く聞かれるようになった。



（2）実践②（問題解決的な学習となる単元づくり）

子どもたちの感動，驚き，疑問，興味，意欲，ずれを引き出すために単元の導入の工夫をした。例えば，「1年生を楽しませてあげたい」という子どもの思いから『1年生と踊れるフォークダンスを作ろう（6年体育）』の単元を起こした。また5年生の総合的な学習で「食品ロスを減らしたい」「自分たちの給食はどのくらいあるのか」という子どもたちの思いから『給食の残食量を調査しよう（5年算数）』の単元を起こした。子どもたちの思いを大切にして，単元を起こすことで，主体的に学ぶ子どもたちの姿が見られた。



(3) 実践③ (言語活動を重視した授業づくり)

言語活動を重視した授業を展開するために、『個の学び【書く・読む】→学びあい【話す・聞く】→振り返り【書く】』の鷹丘小授業モデルに合わせて授業を進めた。

5年生の算数『国盗り合戦(面積)』の授業では、自分なりの多角形の面積の求め方をノートにまとめ、その後ホワイトボードを使ってグループで話し合う活動を行った。話し合いを通して、多角形に対角線を引くことで複数の三角形にわけて考えることができること、対角線の引き方によって面積の求めやすさが変わってくることなどの考えをもつことができた。

6年生の理科『水溶液の秘密をさぐれ』の授業では、鉄が溶けた塩酸を蒸発させたときに白い粉末上のものについて話し合った。もとの鉄だと考える子、別の物質に変化したのではないかと考える子それぞれが自分の考えとその理由をノートにまとめた。その後の学びあいでは、出てきた白っぽい粉末は、再び塩酸に入れても泡がでないこと、電気を通さないこと、磁石につかなくなったことという意見から、鉄が別の物質になったと結論付けることができた。

(4) 授業協議会

研究授業後には、授業の中で研究の手だてが有効だったか協議を行った。参観者は、手立てが有効だと感じた場面とその理由、課題点などを付箋に書き、意見交流を行った。手立ての有効性だけでなく、それにつながる教師の出や板書の書き方などの建設的な意見もたくさんいただくことができた。その後、講師としてお招きした先生方から指導、助言をいただいた。



(5) 県外研修実績

- ・池田市立石橋小学校(1名)
- ・筑波大学附属小学校(2名)
- ・大阪教育大学附属天王寺小学校(1名)
- ・奈良女子大学附属小学校(1名)

4 子どもたちへの効果(成果・課題)

本年度は、3つの手だてについて全職員で共通理解を図り、実践を重ねてきた。「学びの土台となる環境づくり」では、お話タイムを中心に活動を進めてきた。お話タイムを通して、互いの考えを認め合いながら、仲間とわかりあう楽しさに気づいた子どもたちは、授業でもその姿が見られるようになってきた。お話タイムのテーマづくりやお話タイムでの価値づけ方が今後の課題となった。「問題解決的な学習となる単元づくり」では、単元の導入を工夫することで、子どもたちの学習に対する強い問題意識を生むことができた。強い問題意識が子どもたちのこだわりにつながり、夢中になって問題解決する姿が見られた。子どもの思いを丁寧にとり、単元構想を柔軟に修正することでさらに学びを深めていくことができると考える。「言語活動を重視した授業づくり」では、鷹丘小の1時間の授業モデル(個の学び→学び合い→振り返り)に沿った授業を進めてきた。学び合いの場面では、言語活動として話し合いを重視した。その際に、教師の具体的な支援として板書計画や座席表をもとにした意図的な指名に取り組んだ。話し合いを通して、問題解決をするだけでなく、新たな問題も子どもたちから出ており、一人一人が学びを深めていく姿を見ることができた。

3つの手だてが有効にはたらく、めざす子ども像である「互いを認め合いながら、学びを深めていく子」に近づいていることがわかった。今後も研究の論をもとにした実践、検証を重ねていく。

